THE TOHKAI SHIMPO

東海新報

平成23年（2011年）
9月17日 土曜日

022-0002 大船渡市大船渡町字鷹頭9-1 TEL0192-27-1000(代) FAX0192-27-2154 振替口座 02300-9-188 http://www.tohkaishimpo.com/

前年度比1・0ポイント低下。いずれも数値は改善傾向にある。

今議会でも東日本大震災対応に伴う補正予算が上程された。一般会計では71億7100万円の増額で、当初予算とこれまでの補正予算額を加えた総額は608億7430万円となる。

被災地で雇用創出

エンブロイ㈱ 製造の一部を委託

陸前高田で

神奈川県平塚市の化学製品製造会社・エンブロイ㈱（和氣道江社長）はこのほど、自社製品「ウィルスブロッカー」の最終工程作業を陸前高田市小友町の㈲ヤマタ商店（千葉芳郎社長）に委託し、作業を開始した。被災地での雇用創出につながっている。

16日には、高田町の陸前高田商工会仮事務所で記者会見を実施。エンブロイの和氣清弘技術研究所長、業務委託を仲介した食材プロデューサーの田所宜己㈲ウインキューブインターナショナル代表取締役（東京都）、千葉社長が出席した。

和氣所長はウィルスブロッカーについて、「除菌、消臭力の高い二酸化塩素を固形化し、商品化した。職域販売だが、飲食店や大学、海上自衛隊などが利用している」と、概要や安全性を説明。

固形剤は同社のみが使用しており、商品についたシールをはがすと空いた穴から有効成分が出て、1カ月にわたって殺菌や消臭に威力を発揮する。首に提げられるタグタイプで、1個あたり780円。

当初は平塚市内で製造業務の一連を展開。しかし、ウィルスブロッカーの販売も取り扱っていた田所代表が仕事で交流のある千葉社長から被災地の現状を聞き、陸前高田で作業ができないか和氣所長に相談。仮設住宅でもできる内職業務を委託することとした。

陸前高田で行われているのは、固形剤を袋に詰めて専用機械で封をする作業で、1個あたりの賃金は10円。完成品はそのまま注文先へ発送。現在は市内2カ所で展開されており、月平均10万個、ピーク時の11～3月は月20～30万個の製造を計画している。

田所代表は「自分たちで稼げるように被災地でできる仕事を展開し、活気づけたい」と、和氣所長は「地元で製造を一貫するよりコストはかかるが、少しでも被災地が豊かになれば。可能な限り委託を続けていきたい」と話している。

委託作業への問い合わせは、千葉社長（TEL090・2799・4387）へ。

被災地に作業の一部を委託して製造されたウィルスブロッカー

本社来訪

大泉辰紀氏（おおふなと男女共同参画「うみねこの会」事務局長）

込んだ。

この日は死亡者1人に最大500万円が遺族に支給される災害弔慰金の審査会運営を、県に委託する議案も可決。災害関連死に該当するかを判断する組織で、市内では最大20人程度が審議対象となる可能性があるという。

市内での死亡者・行

せられた。

教育委員の選任では、佐藤浩一氏（72）＝盛町権現堂＝の再任を承認した。今定例会の日程次の通り。

▽17～19日＝休会▽20～22日＝一般質問▽23～26日＝休会▽27、28日＝決算審査特別委員会▽29日＝休会▽30日＝本会議

久子さまは、広場に並んで出迎えた被災者1人ひとりに、「食欲は」「おやすみになれますか」などと体調を気遣う言葉をかけて手を握られた。最後に、「1日でも早く心安らかな日が戻ってくることを願っています」と

の国際理解活動の参観が
保育園

し、よりよい連携の姿を探った。助言者として県教委から須藤孝学校教育室主任指導主事も出席。「互いの実態の学びよさを取り入れ、指導に生かしてもらいたい」などとアドバイスしていた。

気仙2市の被害者数

	死者数	行方不明者数
大船渡市	339	112
陸前高田市	1,552	156

（16日現在。死者数は県警、不明者は2市の報告による。死者数は被災した場所の市町に計上）